

2020/9/30

(うとQ世話し 高等戦略)

「讓歩」「讓渡」をする。その前、  
というより「せざるを得なくなる」前に、こちらから先んじて「讓る」のが戦略的に見て、  
最も高度な技である場合があります。

昔ある代議士先生が

「二番じゃいけないの？二番手だって、いいんじゃないですか？」

と言ったことがありますが、それとは全く意味を異にします。

まず、一番を取れる実力は必ず獲得する。

そのうえで、一番である実力をそのまま行使するか、敢えて一步下がって二番手につき、一  
番も二番も、どちらでも取りえる選択肢を保有温存するか。

つまり、敢えて先方を先に立たせて、背後からその出方を観察しうるポジションに立ち、普  
段は相手を風よけ代わりにし、いざという時は脱兎のごとく一番を取り得るというカード  
(切り札)を二枚持つ「より高度なポジションの獲得」の事です。

これは本当に二番手の実力しかなければ、絶対に取りえない高等戦略です。

しかも対外的には「寛大にして謙虚」という大義名分も立ちます。

我が国の街中や交通機関で昔よく見かけた

「どうぞ、どうぞ。そちらこそどうぞお先に」

と続く「果てしない譲り合い」の光景は、実はわが国固有であり古から伝わる、この高等戦  
略の庶民レベルでの発露だったのかもしれない。

「相手を立てる」

「急がば回れ」

も、この高等戦略の別の表現。

そう考えると一本「筋が通る」気がいたします。

しかし悲しいかな、この高等戦略を我が国初め、世界の為政者達も忘れてしまい、我勝ちに  
露骨な先頭ポジション取りに明け暮れているようです。

戦略的には、かなり稚拙なような気が致します。

「お子ちゃまレベル」

と言ったら相当叱られる気も致しますが、昔を知るじじいの自分の正直な感想でございま  
す。